

令和7年7月 文 月	あ お ぞ ら 鹿屋市青少年育成センター 鹿屋市共栄町20-1 TEL 31-1138 (鹿屋市教育委員会 生涯学習課)
「四季折々の田畑の風景から学ぶこと」 鹿屋市立上小原中学校 校長 寺田 洋二郎 朝、通学路の安全点検を兼ねて校区内を歩くことがあるのですが、季節の移り変わりとともに道路脇の田畑が、四季折々に変化していくのを見るのも楽しみの一つとしています。 春の季節、畑に一直線に伸びた黒いマルチに植えられている「さつまいも」の苗を見かけることが多くあります。その日見かけたそれは、葉が萎（しお）れてマルチにへばり付いている感じでしたので、かわいそうに枯れる寸前なのだろうと、素人考えで決めつけてその場を離れました。 しかし、何日か後にもう一度その場を通りかかると、枯れかかっていたあの苗が、しっかり茎を伸ばして葉を茂らせているのが目に留まりました。苗が大きく育っていることが信じられず、新しい苗に植え替えたのだろうとも考え、学校に戻って調べてみました。すると、さつまいもは生命力が非常に強い植物で、一時的にヘタっとなっても、再び元気になって成長することが多いということが分かりました。さつまいもの生命力の強さに驚かされるとともに、自然界のたくましさについても考えさせられた出来事でした。 もちろん水やり等の条件にもよりますが、萎れても再び元気になって成長するさつまいも(自然界)の生命力の強さは、私に、人生における困難や挫折に立ち向かい再起しようとする力、そして粘り強く生きていくことの大切さを教えてくれている素晴らしい教訓のような気がします。 秋の季節、稲穂が黄金色の絨毯のように美しく輝く田んぼを見ると、「実るほど首（こうべ）を垂れる稲穂かな」という言葉がいつも頭に浮かんでくると同時に、豊かな自然の恵み、そしてそれに関わる人々の労苦に対する感謝の気持ちが沸いてきます。 春先、弱々しかった苗が、強い風雨にさらされたり、眩しい日差しを浴びたりする日々の厳しさを乗り越えながら実をつけ、そしてその実を重くして、やがて黄金色になり自然と稲穂が垂れ下がっていく。その様は、人としての在り方や生き方を教えてくれているようです。毎年、立派に成長して黄金色に輝きながら首を下げている稲穂を見ると、改めて己の未熟さに気づかされ、自分も稲のような生き方をしなければと自省する機会になります。 四季折々の田畑の風景は、私たちに多くの示唆を与えてくれます。自然のサイクルと人間の営みが織りなすその光景は、単なる美しさだけでなく、生命の尊さ、努力することの価値、たくましく生きること、そして共生の知恵を教えてくれているような気がしてなりません。 自然に対する畏敬の念を持つことが、自分自身を見つめなおし、人生を深く考えるきっかけになることを教えてくれる、日々の通学路点検です。	